

第3分科会 テーマ：災害復旧等における工夫事例

No.	題名	地 方 ブロック	水系名 河川名	直轄／補助 (級別)	河川概要				発表者	所属部署		事業の概要	主な関係者	事業を進めるにあたっての課題、問題点、悩んでいる点
					河川の流域面積	河川分類	整備計画流量※1	セグメント※1		機 関	部・事務所			
1	令和5年7月梅雨前線豪雨後の 巨瀬川における河道掘削	九州	筑後川水系 巨瀬川	直轄(1級)	84.7km ²	中小河川	290m ³ /s	2-1	上杉 幸輔	九州地方整備局	筑後川河川事務所	・令和5年7月豪雨を受けた巨瀬川で緊急的に河道掘削を実施 ・時間がない、図面がない等様々な制約がある中での現場の工夫 ・施工業者が主体となった環境整備	(工事関係者) 濱崎建設株式会社 井樋建設株式会社	今回発表の河道掘削については完了しており、特にございませ ん。
2	沼田川における 魚類等の遡上に配慮した 河川改修事例について	中国	二級河川 沼田川水系	補助(2級)	540km ²	中小河川	1,400m ³ /s (W=1/100)	2	赤木 秀至	広島県	河川課	平成30年豪雨に対する河川整備を行った際に魚類等の遡上に配慮した設計施工を行っ たとともに、モニタリングによりその効果を確認した。	(調査設計関係者) 中電技術コンサルタント株式会社 ウムヴェルト株式会社尾道営業所 株式会社荒谷建設コンサルタント三原事務所 (工事関係者) 山陽建設株式会社 株式会社青木組	—
3	災害復旧事業に伴い整備した 魚道の検証	中国	裾野川水系 仁保川	補助(2級)	139.2km ²	中小河川	620m ³ /s (W=1/30)	1	平山 康介	山口県	土木建築部 河川課	・令和2年7月豪雨により、仁保川の落差工が被害を受け、災害復旧事業に伴い、学識経 験者の意見を参考に魚道復旧を実施した。 ・魚道の復旧にあたり配慮した項目の達成状況や改善点を紹介する。	(共同研究者) 水産大学校生物生産学科 荒木教授	—
4	人と自然と景観の調和をもう一度！ 多自然川づくりに取組んだ 河川における維持管理について	東北	米代川水系 矢神川	補助(1級)	28km ²	中小河川	180m ³ /s (W=1/5)	1	田上 翔吾	岩手県	県土整備部	・河川等災害関連事業を導入し多自然川づくりに取組んだ河川において、事業完了後の 出水により流路が変化し、その後の経過で土砂堆積や草木の繁茂、河畔林の浸食・流出 など、治水上の課題が発生している。 ・現況の課題を解決するために、職員が生徒となって「いわて多自然川づくり学校」に おけるグループワークにて現場調査を実施し、河川環境や背後地の土地利用状況等の情 報を参考にどのように掘削するか、樹木の伐採が必要か、新たに施設整備を行うかどう かも含めて検討し、グループごとに改修案作成、提案した。 ・改修案の立案だけに留まらず、立案された案を基に実際に河道掘削などを実施し、結 果や経過等を記録し、更なる学びを深めていく予定としている。	(共同研究者) 岩手県盛岡広域振興局土木部岩手土木センター 河川砂防チーム	—
5	千種川水系における 小さな自然再生事業の実践と 今後の展開について	近畿	千種川水系 千種川他	補助(2級)	754km ²	中小河川	2,800m ³ /s (W=1/17)	1	梶島 佑太	兵庫県	光都土木事務所	・千種川水系で実施した地域と連携した小さな自然再生事業 ・千種川水系で実施した小さな自然再生事業の効果 ・千種川水系における今後の小さな自然再生の展開方針	(地域の関係団体) 千種川圏清流づくり委員会 加里屋川ふるさとの川整備連絡協議会 兵庫県立上郡高等学校地域環境科 山野里なんでも探検隊 千種川漁業協同組合	—
6	岩木川の河道掘削事業における 環境への配慮について	東北	岩木川水系 岩木川	直轄(1級)	2,540km ²	大河川	2,500m ³ /s	2-2	木村 寛輝	東北地方整備局	青森河川国道事務所	・河道掘削においてヤナギの種子定着を抑制するために掘削高を下げた ・河川環境管理シートを用いて、掘削後の断面で評価を実施 ・オオタカへの対策として掘削計画の見直しを実施	(調査関係者) いであ株式会社	—
7	北上川汽水域における 盤下げ試験施工について	東北	北上川水系 北上川	直轄(1級)	10,150km ²	大河川	7,200m ³ /s	2-2	中村 恭太	東北地方整備局	北上川下流河川事務所	東日本大震災直後に沈下した地盤が上昇に転じている。北上川下流に最寄りの電子基準 点「河北」では、震災から13年で地盤高が震災前より13cm上回った。 このため多くのヨシ原では、冠水頻度の低下＝乾燥化が進行している。 地盤上昇による高水数の乾燥化は、ヨシ原からイタチハギ等の外来植物群落への変化・拡 大の要因になっている。 北上川のヨシ原（ヨシ群落＋ヨシ以外の抽水植物群落）は、震災の津波と地盤沈下によ り61ha（約40％）が消失し、現状までは回復基調であったが、地盤上昇が継続すると震 災前の状態には戻らない予測となった。 震災前（H20年頃）の環境を目標とし、高水数掘削（盤下げ）によるヨシ原再生を計画 している	(調査関係者) 株式会社建設環境研究所	<課題> 高水数掘削（盤下げ）によるヨシ原再生には知見が不足してお り、今後の地盤上昇に対応した掘削高の検討が課題となってい る。